

イスラエル・ハマス衝突以降の原油市場

第62回IEEJエネルギーウェビナー（速報解説）

2023年10月27日

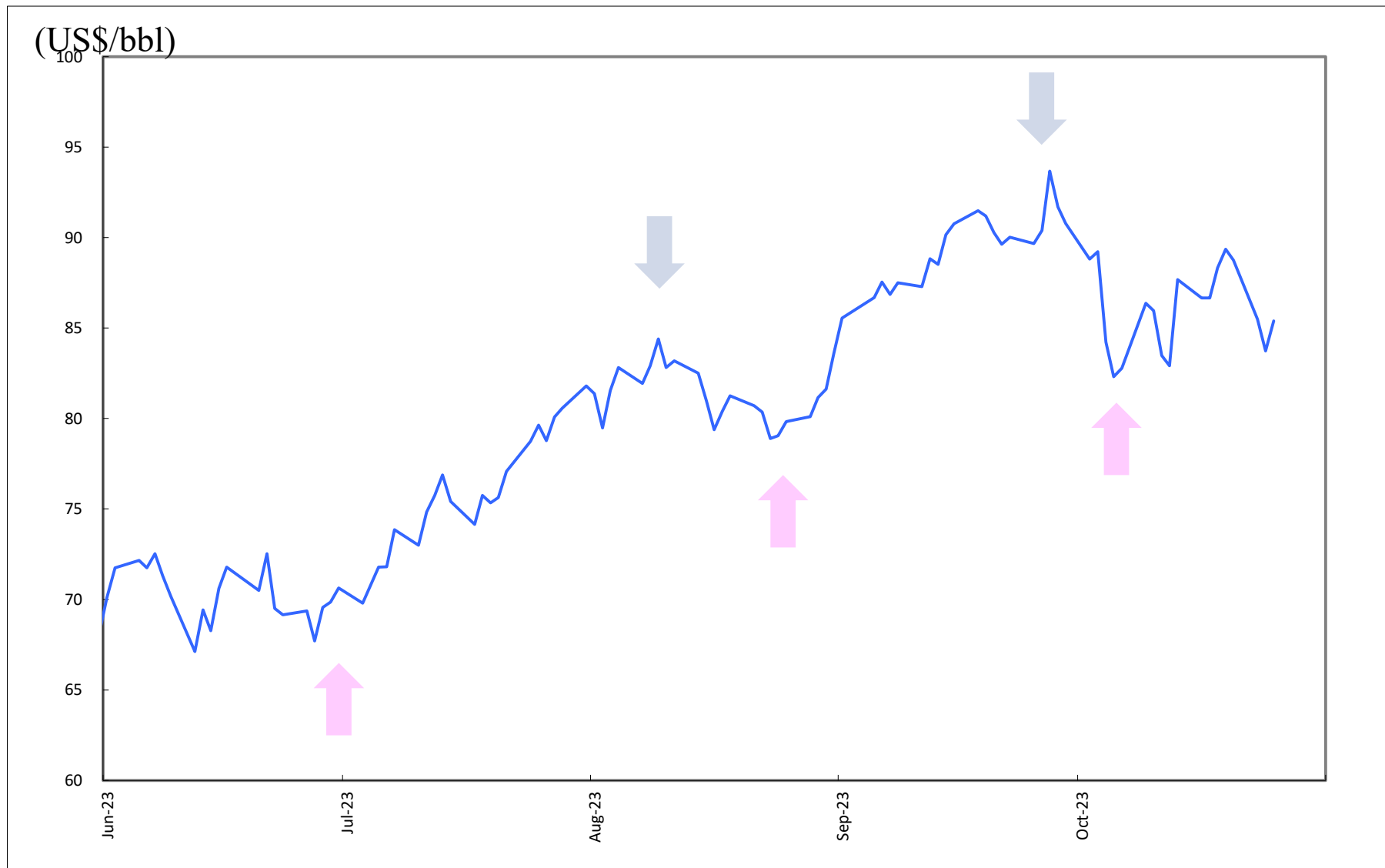
（一財）日本エネルギー経済研究所 専務理事・首席研究員
小山 堅

ハマス奇襲攻撃とイスラエル反撃で、中東は激震へ

- 10月7日、ハマスの大規模奇襲攻撃開始
- 不意を突かれたイスラエルは死者・人質など甚大な被害
- イスラエルは反撃。ガザを包囲し激しい空爆を継続
- イスラエルによるガザ侵攻（地上戦）開始の可能性
- 深刻化するガザの人道危機、双方の死者は7000人超
- 高まる中東を巡る地政学的緊張と不透明化する中東情勢

変動続ける原油価格

WTIはガザ衝突後、80ドル台後半を中心とした推移へ



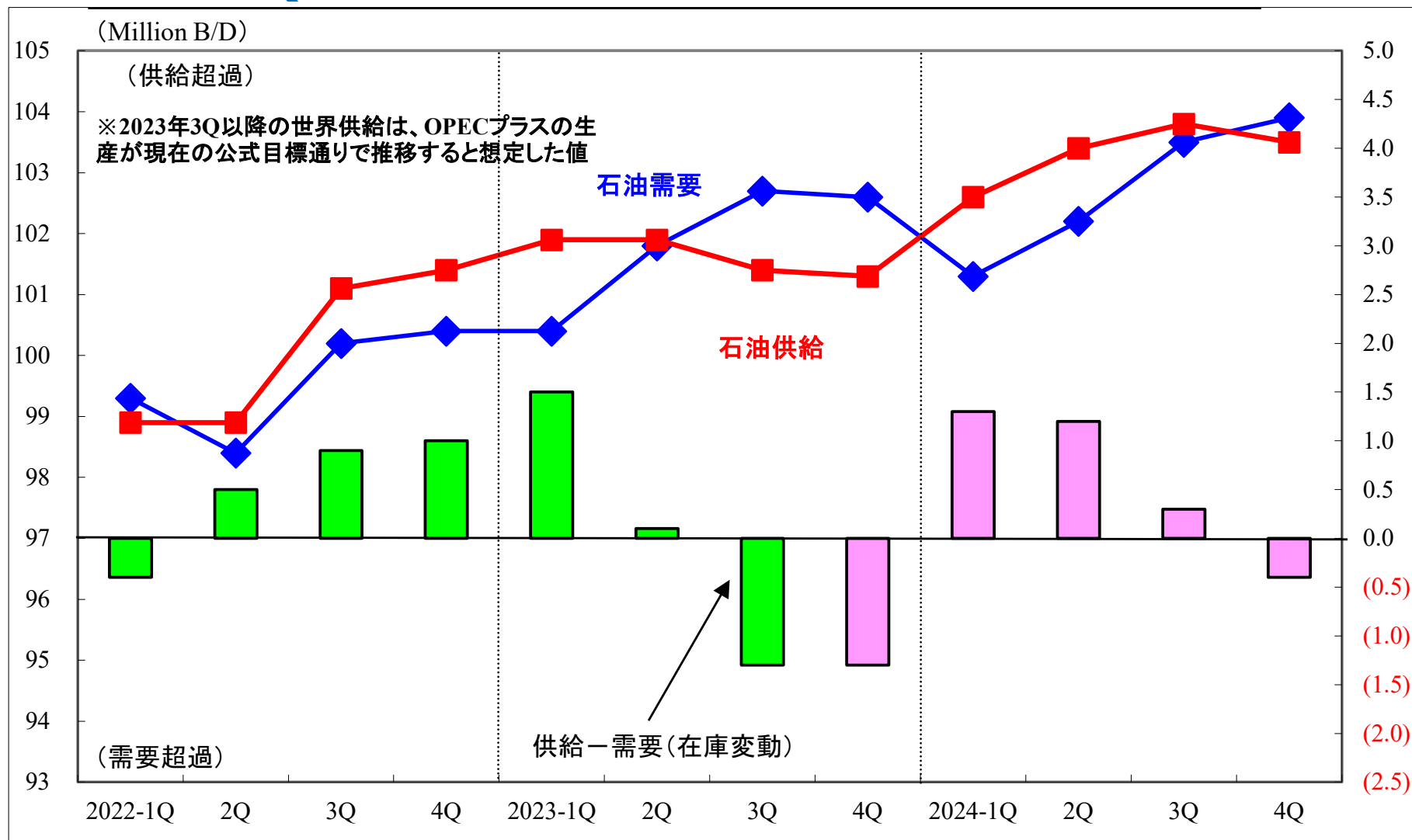
(出所) NYMEX資料等より筆者作成

今後の注目点

- **ハマス奇襲攻撃で、原油市場は地政学リスクに反応、下げ基調が反転し、上昇へ**
- **10月18日のイランによる対イスラエル禁輸の呼びかけでさらに高騰、ブレント90ドル台も**
- **市場の反応は、地政学リスクによる「供給不安」を予想して買いを入れたもの**
- **しかし、実際には中東の石油供給は通常状態を維持**
- **地政学リスクは重要、しかしそれだけでは原油価格を動かし続けることは困難。需給ファンダメンタルスの重要性**
- **今後の原油価格を左右する最重要ポイントは、実際に中東の石油供給に影響が出るかどうか、にかかると**

2023年までの石油需給見通し

2023年1Q まで供給超過、年後半は需要超過へ。しかし...



(出所) IEA「Oil Market Report (2023年10月)」を参照し、筆者作成

注目すべき供給支障の可能性

- イラン呼びかけによる対イスラエル石油禁輸は、実際には困難かつ効果も？（産油国にとってはマイナスの効果も）
- 可能性は低くとも、「イランの関与」に関する米国とイスラエルの対応には要注意
 - イランは直接関与を否定。関与を示す証拠もなし。
 - しかし、米・イスラエルの認識がどう動くか、先読みは難しい
- 関与疑惑が強まる場合、
 - ① 米国はイラン制裁強化に動く可能性。イラン石油輸出低下圧力発生も
 - ② イスラエルは対イラン報復の可能性も。石油関連施設への打撃も。その場合のイランの反応が極めて重要。場合によっては中東の石油供給全体への悪影響も
- ①②共に、可能性は現時点では極めて限定的か。しかしそのインパクトは特に②は大きく、原油価格への影響は甚大

まとめ

- **新たな地政学リスクの追加で、高まる国際石油市場の先行への不確実性**
- **中東情勢の展開・地政学リスクの影響次第で、原油価格は大きく変動する可能性**
- **ただし「地政学リスクだけ」の影響は限定的となる可能性**
- **注目される実際の中東石油供給支障発生の有無・規模**
- **市場不安定化発生の際は、産消国共に対応が必要。特にOPECプラス・サウジアラビアの対応も要注目**